

用いた。無呼吸の判定はサーミスタによるフローが10秒以上平坦になることをもって判定し、低呼吸の判定は安静呼吸時に対して50%以上の振幅の低下、もしくは酸素飽和度の3%以上の低下を伴う振幅低下が10秒以上持続するものとして判定した。

【いびき、睡眠中の呼吸停止】

①いびきの頻度と程度については「毎日かくが激しくない」、または「毎日激しいいびきをかく」と答えたものを「習慣性いびきあり」と判定し、それ以外を「習慣性いびきなし」と判定した。②睡眠中の呼吸停止の指摘の頻度については、「たまにある」または「よくある」と答えたものを「睡眠中の呼吸停止あり」と判定し、それ以外を「睡眠中の呼吸停止なし」と判定した。

【日中の眠気】

日中の眠気の程度の評価には①「日中の強い眠気を感じますか」との単独の項目と、②Epworth sleepiness scale (ESS)³⁾の日本語版を用いた。ESSは24点満点のうち11点以上であったものを陽性と判定した。

【高血圧および肥満】

肥満の有無については、日本肥満学会の基準 (Body mass index: BMI 25以上)を用い、高血圧の有無については収縮期血圧150以上または拡張期血圧90以上、もしくは降圧剤の内服の有無をもって判定した。

【セファロメトリーの計測項目】

セファロメトリーの計測はレントゲンフィルムをスキャナーでコンピュータ上に取り込み、セファロ分析ソフトWinCeph ver.7.5を用いて行った(セファロメトリーの各計測点の詳細については、平成17年度報告書参照)。Esakiら⁴⁾の正常男性control群の平均値に基づき、PNS-P(軟口蓋長) $\geq 42.3\text{mm}$ 、MP-H(下顎平面からの舌骨間距離) $\geq 19.4\text{mm}$ 以上をセファロメトリーでの異常値とした。

【咽頭視診の項目】

Friedmanらの報告³⁾に従い、口峽狭小化の程度を軟口蓋低位および口蓋扁桃肥大の2項目で分類した(詳細については、平成17年度報告書参照)。軟口蓋低位についてはGrade III以上、口蓋扁桃肥大についてはSize 3以上のものを咽頭視診での異常値とした。

平成16年度報告書の結果では、I「習慣性いびきあり」または「睡眠中の呼吸停止あり」と判定されたものII「日中の眠気がある」と回答、または「ESS 11点以上」であったものIII BMI 25以上または高血圧を有するものの3項目のうち、2項目以上陽性であったものがスクリーニングの精度として最も優れていた。本検討ではIIIにあたる問診以外の

項目についてセファロメトリーや咽頭視診も加えて条件を設定し、各条件でOSAS高リスク群の判定を行った場合の診断精度について検討を行った。AASMの重症度基準での中等症以上にあたる、無呼吸低呼吸指数 (apnea-hypopnea index: AHI) ≥ 15 をカットオフ値とした場合の、敏感度 (sensitivity)、特異度 (specificity)、陰性尤度比 (Likelihood ratio of negative test) について検討した。

C. 研究結果

対象とした171名のAHIの平均は 29.7 ± 20.5 であった。またAHIが15以上で中等症以上のOSASと診断されたものは119名(69.6%)であった。図1はAHI < 15とAHI ≥ 15 のそれぞれの群で、セファロメトリーおよび咽頭視診での異常所見の数、すなわち、

- ① PNS-P (軟口蓋長) $\geq 42.3\text{mm}$
 - ② MP-H (下顎平面からの舌骨間距離) $\geq 19.4\text{mm}$
 - ③ 軟口蓋低位 Grade $\geq \text{III}$
 - ④ 口蓋扁桃肥大 Size ≥ 3
- の4項目のうち陽性であった項目数について示した図である。

AHI ≥ 15 の群での陽性項目数は平均1.8、AHI < 15群では平均1.0であった。またAHI ≥ 15 の群では2項目以上陽性であったものが64.6%を占めたのに対し、AHI < 15群では25.0%のみであった。よって上記4項目のうち2項目以上の所見があるか否かが、セファロメトリー、咽頭視診でのスクリーニング陽性基準として妥当と考えられた。

次に、

- I 「習慣性いびきあり」または「睡眠中の呼吸停止あり」と判定されたもの
- II 「日中の眠気がある」と回答、または「ESS 11点以上」であったもの
- III BMI 25以上または高血圧を有するもの
- IV セファロメトリー、咽頭視診での所見陽性の4項目を用いスクリーニング条件を設定した場合の各条件で診断精度を表1に示した。陰性尤度比 (Likelihood ratio of negative test: LR NEG) は「I、II、III、IVのうち2つ以上満たす」という条件で18.78と最も高値であった。

スクリーニング条件	Sensitivity	Specificity	LR NEG
I, II, IIIのうち2つ以上満たす	0.91	0.75	8.11
I, II, IVのうち2つ以上満たす	0.91	0.54	6.40
I, II, III, IVのうち2つ以上満たす	0.97	0.42	16.78
I, II, III, IVのうち3つ以上満たす	0.72	0.83	2.99

表 1 自覚症状に身体情報を加えた各条件でのスクリーニング精度

- I 「習慣性いびきあり」または「睡眠中の呼吸停止あり」と判定されたもの
 II 「日中の眠気がある」と回答, または「ESS 11点以上」であったもの
 III BMI 25以上または高血圧を有するもの
 IV セファロメトリー, 咽頭視診での所見陽性
 LR NEG : Likelihood ratio of negative test 陰性尤度比

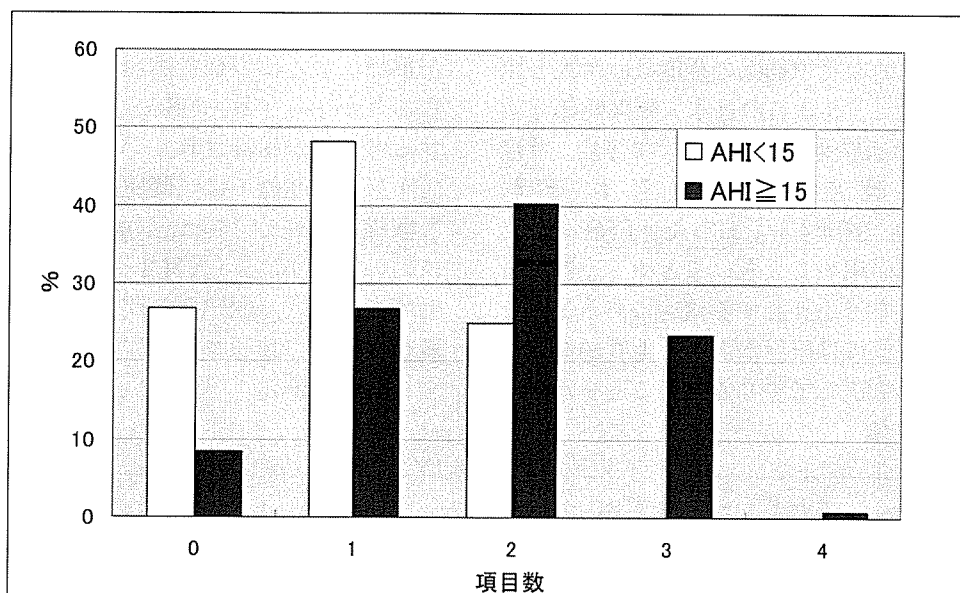


図 1

AHI < 15 群と AHI ≥ 15 群における、セファロメトリーおよび咽頭視診での異常所見の項目数の比較。

- ① PNS-P (軟口蓋長) ≥ 42.3mm
- ② MP-H (下顎平面からの舌骨間距離) ≥ 19.4mm
- ③ 軟口蓋低位 Grade ≥ III
- ④ 口蓋扁桃肥大 Size ≥ 3

の4項目のうち陽性であった項目数について示す。

D. 考察

OSASを疑うための各パラメータについては以下のような項目が挙げられる。

1) 症状

OSASに伴う2大症状は、①いびき, 無呼吸に関する症状, ②日中の眠気に関する症状である。

(1) いびき, 無呼吸

10秒から数十秒におよぶ無呼吸の後, 呼吸再開とともに大きいいびきをかき, しばらくすると再び無

呼吸が生じるというのがOSASの特徴的な症状である。しかし, 受診者の多くが無呼吸もいびきも自覚しないため, 睡眠を共有する人(ベッドパートナー)からの情報が重要となる。大きさの不規則ないびきは無呼吸や低呼吸の存在を示すサインであり, 仰臥位から側臥位になっても大きいいびきをかく場合は, より呼吸障害が重度であることを示す。一人暮らしや家族が別室で就寝している場合などベッドパートナーがいない場合には, これらの症状を確認

できないことがあるが、少なくとも中等症以上の OSAS 患者では、なんらかの機会に無呼吸や大きないびきを指摘されていることがほとんどであり、習慣性のいびき、睡眠中の無呼吸の指摘の有無は本症を疑う重要な問診項目である。

(2) 眠気

自覚的な眠気については、Epworth sleepiness scale, ESS (表2) などによる評価を行うのが日常臨床では一般的である。ESS は質問項目が 8 項目でわかりやすい内容であり、11 点以上は眠気ありと判断する。合計点で評価するので評価する側の経験に左右されず、また本邦だけでなく諸外国で翻訳されて用いられており眠気の共通の尺度として用いることができる。さらに、各症例での治療効果判定に有用である。しかし、日常臨床では、重症の睡眠呼吸障害があるにもかかわらず眠気を自覚していない症例に少なからず遭遇する。わが国の睡眠時無呼吸症候群における自覚的な日中過眠の程度は欧米人と比べると明らかに低く、320 名の日本人睡眠時無呼吸症候群の ESS の解析結果では、軽症、中等症、重症睡眠時無呼吸症候群で、それぞれ 7.8 ± 4.5 , 7.7 ± 4.0 , 9.0 ± 4.3 であった。ESS は自己評価なので変動幅が極めて大きいことや、患者は自分自身の日中過眠を過小評価する傾向にあることなど、日中過眠の評価には限界があり、他覚的な眠気判定検査との分離も決して少なくないことを理解しておく必要がある^{2,3,4)}。

2) 肥満、高血圧

閉塞性睡眠時無呼吸の原因としては、肥満は主要因子ではあるが、必ずしも肥満が原因とは限らない。佐藤の報告⁵⁾では、国内 10 施設に対して無呼吸低呼吸指数 (AHI) が 20 以上の患者の肥満度 (BMI, body mass index) に関するアンケート調査 (n=4814) を行った結果、各施設の患者平均 BMI は 28.2 (26.5 ~ 29.5) で、BMI が 30 以上の肥満者が約 28% で、体重増加が無呼吸発症の重要な因子であることは欧米と同様であったが、BMI が 25 未満の肥満を伴わない患者が約 30%、25 以上 30 未満が約 42% 存在していた。

また、OSAS 患者は高血圧を合併することが多い。OSAS 患者における高血圧の合併率は 15 ~ 50%^{6,7)}、逆に本態性高血圧患者の OSAS の合併率は 30-50% といわれている^{8,9)}。Wisconsin Sleep Cohort Study において、肥満などの因子と独立して OSAS が重症になるにつれて高血圧合併のオッズ比が上がることを示唆され、OSAS が高血圧発症に直接影響する可能性が示唆されている。また、薬物抵抗性高血圧患者の検討では、降圧剤を 3 種類以上内服しても収縮期血圧が 140mmHg 以上であった患者 41 例において、OSAS (AHI > 10) の頻度は 83% と高率であった¹⁰⁾。OSAS の問診においては、高血圧の既往、さらに血圧コントロールが良好か否かを確認する必要がある。

1. 座って読書をしているとき	0	1	2	3
2. テレビを見ているとき	0	1	2	3
3. 公の場所で座って何もしないとき (例えば劇場や会議)	0	1	2	3
4. 1 時間続けて車に乗せてもらっているとき	0	1	2	3
5. 状況が許せば午後横になって休息するとき	0	1	2	3
6. 座って誰かと話をしているとき	0	1	2	3
7. 昼食後静かに座っているとき	0	1	2	3
8. 交通渋滞の車中で 2 ~ 3 分止まっているとき	0	1	2	3

表2 Epworth sleepiness scale (ESS)

1. から 8. の状況でウトウトしたり、眠ってしまうことがありますか。最近の日常生活を思い出して記入してください。質問の中には、経験していないこともあるかもしれませんが、もしもその状況にあったらどうなるかを考えて答えてください。各質問について、0 から 3 のうち最も当てはまる番号に○印をつけてください。

3) ベルリン質問票

OSAS スクリーニングに症状と肥満, 高血圧の有無を用いた手法として, ベルリン質問票が知られている (表 3)。ベルリン質問票は 1996 年の

Conference on Sleep in Primary Care にて提唱された OSAS スクリーニングの手法であり, ①いびきまたは睡眠中の呼吸停止, ②日中あるいは運転中の眠気③肥満または高血圧の 3 カテゴリーのうち, 2カ

1. 身長_____cm	
2. 体重_____kg	
3. 最近 5 年間で体重の変化はありましたか.	増加した・減少した・変化なし
4. いびきをかきますか.	はい・いいえ
5. あなたのいびきの大きさはどのくらいですか.	とても大きい・話し声よりも大きい・話し声と同じくらい・寝息と同じくらい
6. いびきはどのくらいの頻度でかきますか.	ほぼ毎日・3-4日/週・1-2日/週・1-2日/月・かかないもしくは殆どかかない
7. あなたのいびきは他人の迷惑になっていますか.	はい・いいえ
8. 睡眠中に息が止まっていることを誰かに指摘されたことがありますか.	ほぼ毎日・3-4日/週・1-2日/週・1-2日/月・ないもしくは殆どない
9. 朝起きたときに疲れていることはありますか.	ほぼ毎日・3-4日/週・1-2日/週・1-2日/月・ないもしくは殆どない
10. 日中, 疲れや体調がすぐれないことがありますか.	ほぼ毎日・3-4日/週・1-2日/週・1-2日/月・ないもしくは殆どない
11. 車の運転中に眠ってしまったことがありますか.	はい・いいえ
12. 11の質問に「はい」と答えた人はその頻度はどのくらいですか.	ほぼ毎日・3-4日/週・1-2日/週・1-2日/月・ないもしくは殆どない
13. 高血圧ですか.	はい・いいえ

表3 ベルリン OSAS 質問票

テゴリー以上を満たしたものを高リスク群と判定する。ベルリン質問票の有用性についてはすでにいくつかの報告^{11,12)}があるが、判定閾値の設定については今後さらなる検討が必要とも考えられている¹¹⁾。我々の検討（平成16年度研究報告書）では、成人患者234名に対し、症状、肥満・高血圧の組み合わせのうちAHI \geq 15に対する、スクリーニング精度を比較した結果、「習慣性いびきありまたは睡眠中の呼吸停止ありと判定されたもの」、「日中の眠気があると回答、または「ESS 11点以上であったもの」、「BMI \geq 25または高血圧を有するもの」の3項目うち2つ以上満たすという条件が診断精度として最も良好（sensitivity 0.90, specificity 0.62）であった。自覚症状のみでのスクリーニングよりも、肥満や高血圧の有無を条件に加えることで精度が向上することが確認され、ベルリン質問票の妥当性を示唆する結果となった。しかし、過去の報告でいわれているような高い診断精度は得られず、日本人のOSASの病態に沿った問診を行うためには、さらなるパラメータの検討が必要である。

4) 上気道形態異常

(1) 顎顔面形態異常

黒人やアジア人は白人に比べ睡眠時無呼吸を発症しやすく^{13,14)} BMIが30以上の肥満者が全人口の約20%に達する米国と、2~3%に過ぎない日本で有病率に大きな差がないことが知られている^{15,16)}。その理由として日本人が肥満の程度が軽くても睡眠時無呼吸を発症しやすいのは、人種的特徴のひとつでもある顔貌（顎顔面形態の差）が咽頭腔の狭小化に大きく関与している可能性が高く、痩せたアジア人の典型的な睡眠時無呼吸症候群患者はLong face, Small jaw（長顔、小顎）であると推測されている⁵⁾。

(2) 扁桃肥大

扁桃肥大は成人のOSASの20%程度で原因となる。特に30歳以降に、急性扁桃炎となり扁桃肥大が遷延化した例で睡眠時無呼吸を発生する例が多い。Miyazaki et al¹⁷⁾は、中等度以上の口蓋扁桃肥大例では、軟口蓋咽頭形成術を実施しないで、口蓋扁桃摘出のみにより、いびきや無呼吸は十分改善（AHI減少率は80%）したと報告している。左右の口蓋扁桃が前口蓋弓後方で十分観察できるほどであれば扁桃肥大と判断する。また、口峡の上下の狭さの指標としては、麻酔科領域で挿管困難を予測する際に用いられるMallampati法を応用する。座位で舌を出さずに最大開口し、舌と軟口蓋の位置を確認する。この状態で、軟口蓋、口蓋垂が十分に観察可能であれば、咽頭腔は広いと判定し、舌によって、軟口蓋、

口蓋垂が観察できない場合、狭いと判定する。

実際のスクリーニングにおいては、これらの項目を組み合わせスクリーニング基準を設定する必要がある。陰性尤度比（Likelihood ratio of negative test: LR NEG）は疾患のある群に比べて疾患のない群において陰性の結果が何倍得られやすいかを表す指標であり、特異度÷偽陰性率で求められる指標であるが、二次スクリーニングとして簡易型検査やパルスオキシメトリを想定した場合、一次スクリーニングに必要なのは、陰性尤度比の高さともいえる。その観点から今回の結果を検討すると「I, II, III, IVのうち2つ以上満たす」という条件が18.78と最も高値であり、一次スクリーニングの手法として最も優れた条件と考えられた。

セファロメトリーをスクリーニングに用いる場合、費用、放射線被曝の問題、解析の熟練の必要性などいくつかの課題があり、今後の検討課題である。また、上述した問診、診察を詳細に行って異常を認めなくても、睡眠ポリグラフ検査によってはじめて本症と診断される場合も少なからず存在する。すなわち、日中の症状から夜間の睡眠呼吸状態の全てを予測するのは困難で、本症の診断において問診、視診による評価には限界があることを、常に念頭に置いておく必要がある。OSASの有病率の高さ、好発年齢、性差、心血管系合併症、眠気に由来する事故の危険性などを考慮すると、OSASは労働者の安全衛生管理とも密接に関連した疾患であり、産業医療現場においても重要視すべき疾患のひとつである。OSASが国民病ともいわれている現在、その診断には高血圧症のような検診レベルからのスクリーニング、特に重症者においては早期治療につながる医療体制の充実が急務である。診療報酬改訂によって、簡易診断装置やパルスオキシメータによる比較的簡便な二次的在宅検査が定着しつつある現在、OSAS一次スクリーニングにおいて必要とされることは、正常者を効率よく確実に篩い分けしていく手法である。診断精度の向上には問診のみでなく、肥満・高血圧の有無、さらにはセファロメトリーや咽頭視診の所見を加えることが有用であると考えられた。

E. 結論

1) OSAS一次スクリーニングにおける診断精度は「I, II, III, IVのうち2つ以上満たす」という条件で最も良好であった。

2) OSAS一次スクリーニングにおいて必要とされることは、正常者を効率よく確実に篩い分けしていく手法であり、問診のみでなく肥満・高血圧の有無、さらにはセファロメトリーや咽頭視診の所見を加え

ることが有用であると考えられた。

F. 参考文献

- 1) 角谷寛, 角謙介, 高橋憲一, 他: 睡眠時無呼吸症候群と生活習慣病 睡眠時無呼吸症候群の有病率 職域におけるコホート研究から. 日呼吸会誌 2005; 43: 59
- 2) 睡眠呼吸障害研究会: 診断. 「成人の睡眠時無呼吸症候群 診断と治療のためのガイドライン」(睡眠呼吸障害研究会編), 東京, 2005, p15-22.
- 3) 陳 和夫, 巽浩一郎, 赤柴恒人, 他: 閉塞性睡眠時無呼吸低呼吸症候群における眠気評価と運転リスク. 日呼吸会誌 42: 571-574, 2004.
- 4) Chervin RD Adrich MS: The Epworth Sleepiness Scale may not reflect objective measures of sleepiness or sleep apnea. *Neurol.* 52: 125-131, 1999
- 5) 佐藤 誠: 日本人の睡眠時無呼吸症候群. 睡眠呼吸障害 Update エビデンス・課題・展望. 日本評論社, 東京, 2002, p101-107.
- 6) Worsnop CJ, Naughton MT, Barter CE, et al: The prevalence of obstructive sleep apnea in hypertensives. *Am J Respir Crit Care Med* 1998; 157: 111-115
- 7) Fletcher EC, DeBehnke RD, Lovoi MS, et al: Undiagnosed sleep apnea in patients with essential hypertension. *Ann Intern Med* 1985; 103: 190-195
- 8) Osion LG, King MT, Hensley MJ, et al: A Community study of snoring and sleep-disordered breathing. *Health Outcomes. Am J Respir Crit Care Med* 1995; 152: 717-720
- 9) Silverberg DS, Oksenberg A: Are sleep-related breathing disorders important contributing factors to the production of essential hypertension? *Curr Hypertens Rep* 2001; 3: 209-215
- 10) Logan AG, Perlikowski SM, Mente A, et al: High prevalence of unrecognized sleep apnoea in drug-resistant hypertension. *J Hypertension* 2001; 19: 2271-2277
- 11) Netzer NC, Stoohs RA, Netzer CM et al: Using the Berlin Questionnaire to identify patients at risk for the sleep apnea syndrome. *Ann Intern Med* 1999; 131: 485-491
- 12) Gami AS, Pressman G, Caples SM et al: Association of Atrial Fibrillation and Obstructive Sleep Apnea. *Circulation* 2004; 110: 364-367.
- 13) Kripke DF, Ancoli-Israel S, Klauber MR, et

al: Prevalence of sleep-disordered breathing in age 40-64 years: A population based survey. *Sleep* 1997; 20: 65-76

- 14) Li KK, Powell NB, Kushida C, et al: A comparison of Asian and white patients with obstructive sleep apnea syndrome. *Laryngoscope* 1999; 109: 1937-1940
- 15) 岡田 保, 粥川裕平: 疫学. 太田保世編, 日本人の睡眠呼吸障害. 東海大学出版会, 東京, 1994, p149-156.
- 16) Young T, Palta M, Dempsey J, et al: The occurrence of sleep-disordered breathing among middle-aged adults. *N Engl J Med* 1993; 328: 1230-1235
- 17) Miyazaki S, Itasaka Y, Tada H, et al: Effectiveness of tonsillectomy in adult sleep apnea syndrome. *Psychiatry and Clinical Neurosciences* 1998; 52: 222-223

G. 健康危険情報

特になし

H. 論文・学会研究発表

1. 北村拓朗・宇高毅・橋田光一・坂部亜希子・鈴木秀明: 精度の高いOSA一次スクリーニング手法作成に関する検討 *口咽科* 18: 349-356 2006
2. 北村拓朗・宮崎 総一郎: V. プライマリケアにおけるOSAへの対応 1. 問診・診断 a) OSA疑い例に対する問診のあり方 *Prog. Med.* 26: 2633-2638 2006
3. Udaka, T., Suzuki, H., Kitamura, T., Shiomori, T., Hiraki, N., Fujimura, T., Ueda, N.: Relationships Among Nasal Obstruction, Daytime Sleepiness, and Quality of Life *Laryngoscope* 116(12) 2129-2132

(学会発表)

1. 北村拓朗, 坂部亜希子, 鈴木秀明
睡眠呼吸障害の眠気に対する鼻閉の影響について
第31回睡眠呼吸障害研究会 2006年2月
2. 北村拓朗, 坂部亜希子, 鈴木秀明
睡眠呼吸障害患者における扁桃摘出術後のセファログラムの変化について
第19回日本口腔・咽頭科学会総会学術講演会
2006年9月 (東京)
3. Kitamura, T. Effective Primary Screening of Obstructive Sleep Apnea Syndrome
The 4th Sleep Respiration Forum in Seoul combined with Asian Sleep Society Meeting

2006年9月

4. 北村拓朗

いびきと睡眠時呼吸障害

－診断と治療のポイント－ 1. 検査

第20回日本耳鼻咽喉科学会専門医講習会

2006年11月

5. 北村拓朗、坂部亜希子、鈴木秀明

睡眠呼吸障害患者における扁桃前後のセファログラム変化について

第3回北九州下関睡眠呼吸障害研究会 2006年11月

6. 北村拓朗、坂部亜希子、鈴木秀明

口蓋扁桃摘出術後のセファログラムの変化と治療効果との関連について

第38回睡眠呼吸障害研究会 2007年2月

1. 知的財産権の出願・登録状況

特になし

平成16～18年度

厚生労働科学研究費補助金・労働安全衛生総合研究事業における研究業績

主任研究者：安部治彦（産業医科大学）

研究成果の刊行に関する一覧表

著書 48編（欧文 13編、和文 35編）

学術論文 158編（欧文 77編、和文 81編）

研究成果の刊行に関する一覧表（和文書籍）

No.	著者氏名	論文タイトル名	書籍名	書籍全体の 編集者名	出版社名	出版地	出版年	ページ
1	野上昭彦	WPW 症候群	今日の治療指針 2004	山口 徹, 北原光夫	医学書院	東京	2004	254
2	野上昭彦	心房粗動	講義録循環器学	小室一成	メディカル ビュー社	東京	2004	208- 211
3	野上昭彦	循環器の病気：不整脈（脈の 乱れる病気）：心室頻拍、心 室細動、突然死	家庭医学大全	磯部光章	法研		2004.	1033- 1039
4	野上昭彦	ベラパミル静注で停止する 心室頻拍	不整脈診療のコ ツと落とし穴	小川 聡	中山書店	東京	2004.	160- 163
5	野上昭彦	パニック障害と誤診されう る発作性上室性頻拍	不整脈診療のコ ツと落とし穴	小川 聡	中山書店	東京	2004.	11
6	住吉正孝	房室ブロック、講義録循環器 学		小室一成	MEDICALVI- EW	東京	2004	236- 239
7	中島 博、 和田 修、 房野隆文	生活環境とペースング、ペー スメーカー治療		相澤義房	メジカル ビュー社、	東京	2004	226- 235
8	野上昭彦	プルキンエ線維と心室頻拍・ 心室細動	不整脈 2005	井上 博	メディカル ビュー社	東京	2005	139- 153
9	野上昭彦	心房粗動・細動	臨床研修医必携 経験すべき循環 器診療	村川祐二	メディカル ビュー社	東京	2005.	185- 190
10	安部治彦、 河野律子、 住吉正孝	神経調節性失神	「失神の診断と治 療」	安部治彦	メディカルレ ビュー社、	大阪	2006	61-76
11	住吉正孝、 安部治彦	状況失神	「失神の診断と治 療」	安部治彦	メディカルレ ビュー社	大阪	2006	77-87
12	安部治彦	オーバービュー：失神を理解 する。	「失神の診断と治 療」	今泉 勉監修、 安部治彦	メディカルレ ビュー社	大阪	2006	17-25
13	安部治彦	ペースメーカー機種一覧。「心 臓ペースメーカー・植え込み型 除細動器」	[目でみる循環器 病シリーズ・19]	相沢義房	メジカル ビュー社	大阪	2005	305- 323
14	住吉正孝	ゴルフ中に心筋梗塞を起こ さないために	健康とスポーツ・ 突然死を防ぐた めに	順天堂大学医学部	学生社	東京	2005	75 - 97
15	住吉正孝	心室頻拍症、心室細動	内科疾患診療マ ニュアル	富野康日己編	中外医学社	東京	2005	158 - 162
16	中島 博	高分子辞典第 3 版		日本高分子学会編 集（共同執筆）	朝倉書店	東京	2005	

研究成果の刊行に関する一覧表（和文書籍）

No.	著者氏名	論文タイトル名	書籍名	書籍全体の編集者名	出版社名	出版地	出版年	ページ
17	野上昭彦	多型心室頻拍／心室細動	カテーテルアブレーション	相澤義房	メディカルビュー社	東京	2006	150-161
18	野上昭彦	左室起源特発性心室頻拍（ベラパミル感受性）	心臓電気生理検査	大江 透	メディカルビュー社	東京	2006	140-154
19	野上昭彦	発作性上室性頻拍	今日の治療指針2006	山口 徹, 北原光夫, 福井次矢	医学書院	東京	2006	258-259
20	河野律子、安部治彦	房室ブロック：神経調節性失神「新・心臓病診療プラクティス」	7：心電図で診る・治す	清水昭彦、笠貫 宏	文光堂	東京	2006	129-131
21	安部治彦	頻脈性不整脈を治療する方法は？：ICD/PM 患者に対して就業はどうする？「新・心臓病診療プラクティス」	7：心電図で診る・治す	清水昭彦、笠貫 宏	文光堂	東京	2006	193-195
22	安部治彦	こんなときあなたならどうする	「ペースメーカーに関する諸問題」	中島 博 須賀 幾	第35回ペーシング治療研究会発行、大宮プロテック	大宮	2006	1-52
23	萩ノ沢泰司、河野律子、安部治彦	第2章：ペースメーカーに関する基礎知識	「生体内デバイス植込み患者と電磁干渉」	安部治彦 豊島 健	メディカルレビュー社	大阪	2007年5月発刊予定	
24	河野律子、萩ノ沢泰司、安部治彦	第3章：手術時の電磁干渉とその対策	「生体内デバイス植込み患者と電磁干渉」	安部治彦 豊島 健	メディカルレビュー社	大阪	2007年5月発刊予定	
25	安部治彦	第4章：国内におけるペースメーカー・ICD患者の就労の実際	「生体内デバイス植込み患者と電磁干渉」	安部治彦 豊島 健	メディカルレビュー社	大阪	2007年5月発刊予定	
26	安部治彦	オーバービュー：今何故、心室中隔なのか？	心室中隔ペーシング	安部治彦	メディカルレビュー社	大阪	2007年5月発刊予定	
27	安部治彦	大規模臨床試験からみた心室ペーシング部位の重要性	心室中隔ペーシング	安部治彦	メディカルレビュー社	大阪	2007年5月発刊予定	
28	安部治彦、河野律子	植込み手術手技の実際	心室中隔ペーシング	安部治彦	メディカルレビュー社	大阪	2007年5月発刊予定	
29	萩ノ沢泰司、河野律子、安部治彦	手術に伴う合併症と対策	心室中隔ペーシング	安部治彦	メディカルレビュー社	大阪	2007年5月発刊予定	
30	安部治彦、河野律子	心室ペーシングの血行動態に及ぼす影響	心室中隔ペーシング	安部治彦	メディカルレビュー社	大阪	2007年5月発刊予定	
31	安部治彦	心室ペーシングと不整脈	心室中隔ペーシング	安部治彦	メディカルレビュー社	大阪	2007年5月発刊予定	
32	林 英守、住吉正孝	心電図の各種検査からわかることは；モニター心電図、新心臓病診療プラクティス	7：心電図で診る・治す	清水昭彦 笠貫 宏	文光堂	東京	2006	30 - 32

研究成果の刊行に関する一覧表（和文書籍）

No.	著者氏名	論文タイトル名	書籍名	書籍全体の編集者名	出版社名	出版地	出版年	ページ
33	中島 博	医療環境における電磁干渉と安全対策「放射線診断機器(CT,MRI含む)による電磁干渉」	生体内植込みデバイス患者と電磁干渉	安部治彦 豊島 健	メディカルレビュー社	大阪	2007年 5月刊行 予定	
34	中島 博	生体内デバイスの電磁障害に関する臨床医学的諸問題「ペースメーカー患者における電磁干渉」	生体内植込みデバイス患者と電磁干渉	安部治彦 豊島 健	メディカルレビュー社	大阪	2007年 5月刊行 予定	
35	中島 博	スクリーインリードの特性と使い方	心室中隔ペーシングの実際	安部治彦	メディカルレビュー社	大阪	2007年 5月刊行 予定	

研究成果の刊行に関する一覧表（欧文書籍）

No.	著者氏名	論文タイトル名	書籍名	書籍全体の編集者名	出版社名	出版地	出版年	ページ
1	<u>Sumiyoshi M</u>	Circadian rhythm in neurally mediated syncopal syndrome.	Clinical and occupational medicine. A handbook for occupational physicians.	Abe H and Nakashima Y	Backhuys publishers	Leiden	2004	133-138
2	<u>Abe H</u> , <u>Nagatomo T</u> , <u>Nakashima Y</u>	Prevention by daily orthostatic self-training for neurocardiogenic syncopal workers.	Clinical and Occupational Medicine. A Handbook for Occupational Physicians	Abe H, Nakashima Y	Backhuys Publishers	Leiden the Netherlands	2004	127-132
3	<u>Nagatomo T</u> , <u>Enta K</u> , <u>Abe H</u> , <u>Nakashima Y</u>	Screening for the Brugada syndrome in Japanese workers.	Clinical and Occupational Medicine. A Handbook for Occupational Physicians.	Abe H, Nakashima Y	Backhuys Publishers	Leiden the Netherlands	2004	11-21
4	<u>Kohshi K</u> , <u>Imada H</u> , <u>Nomoto S</u> , <u>Katoh T</u> , <u>Abe H</u>	A new approach for cancer treatments - radiotherapy after hyperbaric oxygenation - : a clinical study.	Proceedings of 13th Intn' l Cong Hyperbaric Med.	Cramer FS	Best Publishing Company	AZ, USA.	2004	95-106
5	<u>Kohshi K</u> , <u>Kunugita N</u> , <u>Kinoshita Y</u> , <u>Katoh T</u> , <u>Abe H</u>	A new approach for cancer treatments -radiotherapy after hyperbaric oxygenation:- an experimental study.	Proceedings of 13th Intn' l Cong Hyperbaric Med.	Cramer FS,	Best Publishing Company	AZ, USA.	2004	107-113
6	<u>Kohshi K</u> , <u>Okudera T</u> , <u>Katoh T</u> , <u>Kinoshita Y</u> , <u>Abe H</u>	Do breath-hold dives cause dysbaric diving accidents?	Proceedings of 13th Intn' l Cong Hyperbaric Med.	Cramer FS	Best Publishing Company	AZ, USA	2004	107-113
7	<u>Kohshi K</u> , <u>Okudera T</u> , <u>Katoh T</u> , <u>Abe H</u>	Diving accidents during repetitive breath-hold dives: two case reports.	Proceedings of 13th intn' l Cong Hyperbaric Med.	Cramer FS	Best Publishing Company	AZ, USA.	2004	217-222,
8	<u>Toyoshima T</u> , <u>Yamanouchi Y</u> , <u>Nakajima H</u>	Occupational and environmental issues for ICD and pacemaker recipients	Clinical and Occupational Medicine	Abe H and Nakashima Y	Backhuys Publishers	Leiden	2004	113-119
9	<u>Nogami A</u>	Catheter ablation of primary ventricular fibrillation: mapping methods and the mechanism of catheter ablation	Advances in Electrocardiology 2004. Proceedings of the 31st International congress on Electrocardiology.	World Scientific,	Hiraoka M	New Jersey	2005	841-851
10	<u>Kawakami K</u> , <u>Nagatomo T</u> , <u>Abe H</u> , <u>Oginosawa Y</u> , <u>Tsurugi T</u> , <u>Nakashima Y</u>	β 1-selective antagonists are more effective for the treatment of type 1 long QT syndrome.	Advances in Electrocardiology 2004	Hiraoka M, Ogawa S, Kodama I, Inoue H, Kasanuki H, Katoh T.	World Scientific Publishing Co. Pte. Ltd.	USA	2005	274-277
11	<u>Abe H</u> , <u>Nakashima Y</u>	Assessment of home orthostatic self-training in the prevention of neurocardiogenic syncope.	Advances in Electrocardiology 2004	Hiraoka M, Ogawa S, Kodama I, Inoue H, Kasanuki H, Katoh T.	World Scientific Publishing Co. Pte. Ltd.	USA	2005	730-734
12	<u>Tsunoda S</u> , <u>Abe H</u> , <u>Mitsuhashi T</u> , <u>Ishizuka S</u>	Validation of quality of life questionnaire for ICD patients.	Advances in Electrocardiology 2004	Hiraoka M, Ogawa S, Kodama I, Inoue H, Kasanuki H, Katoh T.	World Scientific Publishing Co. Pte. Ltd.	USA:	2005	792-795
13	<u>Nogami A</u>	Ablation of idiopathic left ventricular tachycardia.	Catheter ablation of cardiac arrhythmia: Principles and practical approach.	Wood MA, Huang SKS	Philadelphia, Elsevier.	USA	2006	491-509

研究成果の刊行に関する一覧表 (雑誌)

No.	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
1	白井達也, 野上昭彦, 杉安愛子, 窪田彰一, 中尾元栄, 有馬秀紀, 柳沼憲志, 柴祐司, 柚本和彦, 玉木利幸, 加藤健一, 井川昌幸, 野田浩, 内藤滋人	通常の植え込み型除細動器を用いた両心室あるいは右心室多点ペーシング—その有用性と問題点—	不整脈	20	359-366	2004
2	上野克仁, 小西敏雄, 深田睦, 大倉一宏, 古川浩, 柴祐司, 柚本和彦, 玉木利幸, 野上昭彦, 加藤健一	術後左心補助人工心臓を要した難治性心室頻拍と心室瘤を伴う心筋梗塞の1手術例	JCardiol	43	231-235	2004
3	杉安愛子, 野上昭彦, 有馬秀紀, 柳沼憲志, 柴祐司, 窪田彰一, 中尾元栄, 柚本和彦, 玉木利幸, 安部慎治, 加藤健一	肺動脈アプローチでは左冠動脈に近接するために左冠尖アプローチで安全に高周波カテーテル焼灼術を施行しえた流出路心室頻拍の一例.	不整脈	20	425-430	2004
4	白井達也, 野上昭彦, 杉安愛子, 窪田彰一, 中尾元栄, 柳沼憲志, 柴祐司, 柚本和彦, 玉木利幸, 加藤健一, 井川昌幸	右心房後壁(静脈洞)に存在した固定性伝導ブロック領域周囲と三尖弁輪周囲を同時に旋回する心房粗動の1例	臨床心臓電気生理	27	105-112	2004
5	Tsurugaya H, Tada H, Toyama T, Naito S, Adachi H, Seki R, Nogami A, Hoshizaki H, Kurabayashi M, Oshima S, Taniguchi K	Usefulness of quantitative gated single-photon emission computed tomography to evaluate ventricular synchrony in patients receiving biventricular pacing.	Am J Cardiol	94	127-130	2004
6	Tada H, Ito S, Naito S, Kurosaki K, Ueda M, Shinbo G, Hoshizaki H, Oshima S, Nogami A, Taniguchi K	Prevalence and electrocardiographic characteristics of idiopathic ventricular arrhythmia originating in the free wall of the right ventricular outflow tract.	Circ J	68	909-914	2004
7	Tada H, Naito S, Ito S, Kurosaki K, Ueda M, Shinbo G, Hoshizaki H, Oshima S, Taniguchi K, Nogami A,	Significance of two potentials for predicting successful catheter ablation from the left sinus of Valsalva for left ventricular epicardial tachycardia.	PACE	27	1053-1059	2004
8	Tada H, Hiratsuji T, Naito S, Kurosaki K, Ueda M, Ito S, Shinbo G, Hoshizaki H, Oshima S, Oshima S, Nogami A, Taniguchi K	Prevalence and characteristics of idiopathic outflow tract tachycardia with QRS alteration following catheter ablation requiring additional radiofrequency ablation at a different point in the outflow tract.	PACE	27	1240-1249	2004
9	Tada H, Naito S, Meguro K, Nogami A, Taniguchi K	Persistent tachycardia originating from the superior vena cava as a driver for atrial fibrillation.	PACE	27	252-255	2004
10	Nogami A, Tada H, Naito S, Kaneko T	Unidirectional atrio-atrio conduction after surgical isolation of the posterior part of the left atrium and pulmonary veins for atrial fibrillation: simple post surgical evaluation.	PACE	27	812-814	2004
11	Tada H, Naito S, Miyazaki A, Oshima S, Nogami A, Taniguchi K	Successful catheter ablation of atrial tachycardia originating near the atrioventricular node from the noncoronary sinus of Valsalva.	PACE	27	1440-1443	2004
12	Sumiyoshi M, Nakata Y, Minoda Y, Ohta H, Kojima S, Suwa S, Tokano T, yasuda M, Nakazato Y, Daida H	Circadian pattern in neurally mediated syncope.	Circ J	68	206	2004
13	安部治彦	神経調節性失神に薬物治療は有効か。	臨床医のための循環器診療	3	29-33	2004
14	安部治彦	神経調節性失神に対する非薬物治療の進歩? 起立調節訓練法。	PIRAMID,	2.4	2-6	2004

研究成果の刊行に関する一覧表 (雑誌)

No.	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
15	安増十三也、安部治彦	ペースメーカー患者における Cardiacbaroreflexfunction の評価 - Baroreceptor-strokevolumereflexsensitivity による一	PIRAMID,	2:6	2-6	2004
16	安部治彦	ペースメーカーによる QOL と予後の改善。	Heart View	8	13:45-51	2004
17	荻ノ沢泰司、安部治彦、安増十三也、長友敏寿、中島康秀	ペースメーカー患者における Baroreceptor-StrokeVolumereflexsensitivity の検討 - 生理的ペーシング(DDD) と非生理的ペーシング (VVI) の比較 -	心臓	36(Suppl2)	17-19	2004.
18	Abe H, Nakashima Y	Editorial. Does right ventricular apical pacing reduce left ventricular systolic function.	Internal Medicine,	43	167-168	2004.
19	Yasumasu T, Takahara K, Abe H, Nakashima Y	Determination of baroreceptor-stroke volume reflex sensitivity by power spectral analysis: a quantitative probe of baroreceptor-cardiac reflex.	Clin Exp Hypertens,	26 (2)	165-175	2004.
20	Tanikawa T, Abe H, Tanaka Y, Nakashima Y	Cardiac autonomic balance and QT dispersion during head-up tilt testing in diabetic patients with and without sensory neuropathies.	Clin Exp Hypertens	26 (2)	137-144,	2004.
21	Nagatomo T, Abe H, Kikuchi K, Nakashima Y	New onset of pacemaker dependency after permanent pacemaker implantation.	PACE	27	475-479	2004.
22	Abe H, Kitamura T, Oginosawa Y, Nakashima Y	Alleviation of central sleep apnea by ventricular pacing in a patient with an implanted cardioverter defibrillator.	PACE	27	1447-1448	2004
23	安部治彦、中島康秀	第 23 回産業医科大学国際シンポジウムを終えて	産業医学ジャーナル	27	57-61	2004
24	戸叶隆司、中田八洲郎、佐々木玲聡、山下晴世、河野安伸、飯田洋司、中里馨、安田正之、峰田自章、住吉正孝、中里祐二、代田浩之	洞機能不全症候群における右心房不応期に関する検討	心電図	24	49 - 58	2004
25	安田正之、中里祐二、佐々木玲聡、山下晴世、河野安伸、飯田洋司、中里馨、戸叶隆司、代田浩之、峰田自章、住吉正孝、中田八洲郎	心房粗動に対する bepridil の有用性	不整脈	20	460-467	2004
26	Tokano T, Nakazato Y, Sasaki A, Yamashita H, Iida Y, Kawano Y, Mineda Y, Nakazato K, Yasuda M, Sumiyoshi M, Nakata Y, Daida H	Dislodgement of an atrial screw-in lead 10 years after implantation.	PACE	27	264-265	2004
27	Suwa S, Sumiyoshi M, Mineda Y, Ohta H, Kojima S, Nakata Y	Vasovagal response induced by a low dose of isoproterenol infusion before tilting-up.	Circ J	68	876-877	2004
28	太田洋、住吉正孝、諏訪 哲、田村 浩、佐々木玲聡、小島貴彦、峰田自章、小島 諭、中田八洲郎	奇異性脳梗塞と肺血栓症を同時発症した卵円孔開存を伴う深部静脈血栓症の 1 例	心臓	36	597-603	2004

研究成果の刊行に関する一覧表 (雑誌)

No.	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
29	中島 博、和田 修、房野隆文	スクリーンロード	Therapeutic Research	25	565-567	2004
30	村山淳子、菅原育、鷲原親喜、田代友之、仲 公正、和田 修、中島 博、北見 翼、中野 真、山田太郎、辻田和紀、竹内 仁、矢澤 徹	悪性リンパ腫の診断過程の検討	埼玉県医学会雑誌	Vol.38	394-400	2004
31	中島 博、和田 修	ペースメーカークリニックにおける閾値測定の意義	Therapeutic Research	Vol.25	2024-2025	2004
32	Nishimura, M.・Terao, T.・Soeda, S.・Nakamura, J.・Iwata, N.・Sakamoto, K	Suicide and occupation	further supportive evidence for their relevance Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry	28(1)	83 - 87	2004
33	中村 純・寺尾 岳・吉村玲児・小嶋秀幹・副田秀二・新開隆弘・行正 徹・中島満美	産業界のための精神科医との連携に関するマニュアル試案	産業界ジャーナル	27(3)	5-12	2004年
34	Soeda,S.Kaku,K.Hayashi,T.Sugawara, Y.Nakamura, J	Differences in mental health consultation between male and female workers in the health care center of a private enterprise	J UOEH	26(2)	207 - 214	2004
35	中村 純	産業保健・障害者の復職日	医師会誌	131(12)	216-218	2004年
36	中村 純	精神科医への紹介の時期と方法	日医師会誌	131(12)	105-108	2004年
37	Okamoto, T. Kojima, H.Nakamura, J	Very low cholesterol levels may inhibit the treatment of depression	Int J Neuropsychopharmacol	7(1)	338 - 339	2004
38	中村 純	職場におけるうつ病の早期発見と自殺予防	臨精薬理	7(7)	1127-1132	2004年
39	井上賀晶・寺尾 岳・岡本龍也 中村 純	抗うつ薬と自殺行動	SSRIs を中心に臨精薬理	7(7)	1149-1154	2004年
40	副田秀二・中村 純	職場における障害の現れ方	精神臨サービス	4(3)	346-349	2004年
41	中村 純	うつ状態・うつ病の早期発見とその対応	ストレス科	19(1)	40-44	2004年
42	中村 純	産業界と精神科医・心理療法家との連携	精神療法	30(5)	483-487	2004年

研究成果の刊行に関する一覧表 (雑誌)

No.	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
43	小嶋秀幹・中村 純	うつ病の自殺とその防止対策	臨精医	33(12)	1555-1559	2004
44	中村 純	産業医と専門医との連携	産業精保健	12(4)	258-262	2004
45	Fujimura K, Yoshida M, Goto K, Mori T, Suzuki H	Effect of salicylate on electrically evoked otoacoustic emissions elicited in the first and third turns of the guinea pig cochlea.	Acta Otolaryngol	124	896-901	2004
46	Mori T, Fujimura K, Yoshida M, Suzuki H	Effect of glucocorticoid receptor antagonist on CAPs threshold shift due to short-term sound exposure in guinea pigs.	Auris Nasus Larynx	31	395-399	2004
47	野上昭彦	心室細動のアブレーション	HeartView	9	579-587	2005
48	野上昭彦	心室細動のアブレーション	心電図	25	227-234	2006
49	窪田彰一, 野上昭彦, 杉安愛子, 有馬秀紀, 小和瀬晋弥, 坂元敦, 青木元, 柳沼憲志, 柚本和彦, 玉木利幸, 加藤健一, 井川昌幸	カテーテル焼灼術によって心室細動が劇的に抑制された心筋梗塞後 Electrical Storm の 1 例	臨床心臓電気生理	28	81-90	2005
50	Nogami A, Sugiyasu A, Kubota S, Kato K	Mapping and ablation of idiopathic ventricular fibrillation from Purkinje system.	Heart Rhythm	2	646-649	2005
51	Tada H, Toide H, Naito S, Kurosaki K, Ito S, Miyaji K, Yamada M, Okaniwa H, Kobayashi Y, Maruyama H, Higuchi R, Nogami A, Oshima S, Taniguchi K	Tissue Doppler imaging and strain Doppler imaging as modalities for predicting clinical improvement in patients receiving biventricular pacing.	Circ J	69	194-200	2005
52	Tada H, Ito S, Naito S, Hasegawa Y, Kurosaki K, Ezure M, Kaneko T, Oshima S, Taniguchi K, Nogami A	Long-term results of cryoablation with a new cryoprobe to eliminate chronic atrial fibrillation associated with mitral valve disease.	PACE	28	73-77	2005
53	Ito S, Tada H, Naito S, Hasegawa Y, Kurosaki K, Ueda M, Shinbo G, Oshima S, Nogami A, Taniguchi K	Simultaneous mapping in the left sinus of Valsalva and coronary venous system predicts successful catheter ablation from the left sinus of Valsalva.	PACE	28	150-154	2005
54	Tada H, Toide H, Naito S, Ito S, Kurosaki K, Kobayashi Y, Miyaji K, Yamada M, Oshima S, Nogami A, Taniguchi K	Tissue tracking imaging as a new modality for identifying the origin of idiopathic ventricular arrhythmias.	Am J Cardiol	95	660-664	2005
55	Tada H, Ito S, Naito S, Kurosaki K, Kubota S, Sugiyasu A, Tsuchiya T, Miyaji K, Yamada M, Kutsumi Y, Oshima S, Nogami A, Taniguchi K	Idiopathic ventricular arrhythmia arising from the mitral annulus: a distinct subgroup of idiopathic ventricular arrhythmias.	J Am Coll Cardiol	45	877-886	2005
56	Nakao M, Nogami A, Sugiyasu A, Kubota K, Arima H, Kowase S, Sakamoto A, Yaginuma K, Aoki A, Yumoto K, Tamaki T, Kato K, Tada H, Naito S	Catheter ablation of tachycardias after undergoing a surgical atriotomy using a multipolar electrode catheter: conventional mapping method without an electroanatomical mapping system.	Circ J	69	837-843	2005

研究成果の刊行に関する一覧表 (雑誌)

No.	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
57	Tada H, Kurosaki K, Ito S, Naito N, Yamada M, Miyaji K, Hashimoto T, Yoshimura Y, Nogami A, Oshima S, Taniguchi K	Left atrial and pulmonary vein ostial ablation as a new treatment for curing persistent atrial fibrillation.	Circ J	69	1057-1063	2005
58	Yamauchi Y, Aonuma K, Takahashi A, Sekiguchi Y, Hachiya H, Yokoyama Y, Kumagai K, Nogami A, Jesaka Y, Isobe M	Electrocardiographic characteristics of repetitive monomorphic right ventricular tachycardia originating near the His-bundle.	J Cardiovasc Electrophysiol	16	1041-48	2005
59	Tada H, Kurosaki K, Ito S, Naito S, Yamada M, Miyaji K, Hashimoto T, Oshima S, Nogami A, Taniguchi K	Idiopathic premature ventricular contractions arising from the pulmonary artery: importance of mapping in the pulmonary artery in left bundle branch block-shaped ventricular arrhythmias.	Circ J	69	865-869	2005
60	Kohshi K, Wong RM, Abe H, Katoh T, Okudera T, Mano T	Neurological manifestations in Japanese Ama divers. Review.	Undersea & Hyperbaric Medicine	32	11-20	2005
61	安部治彦, 北村拓朗, 萩ノ沢泰司, 竹政啓子, 河野律子, 中島康秀, 白石隆吉, 荒木優, 村里嘉信	ペースメーカー患者における睡眠呼吸障害の発生頻度とペーシング治療の効果	心臓	37(Suppl.2)	11-13	2005
62	安部治彦	心臓ペーシング治療の新しい試みー心臓ペーシングと心機能ー。	Therapeutic Research	26(12)	2001-2007	2005
63	萩ノ沢泰司, 安部治彦, 剣卓夫, 河野律子	ペースメーカー患者の予後規定因子ー圧受容体反射機能に及ぼすペーシングモードの影響ー。	Therapeutic Research	26(9)	1875-1877	2005
64	Abe H, Kohshi K, Nakashima Y	Home orthostatic self-training in neurocardiogenic syncope.	PACE	28	246-248	2005
65	Oginosawa Y, Nagatomo T, Abe H, Makita N, Makielski JC, Nakashima Y	Intrinsic mechanism of the enhanced rate-dependent QT shortening in R1623Q mutant of the LQT3 syndrome.	Cardiovasc Res.	65	138-147	2005
66	Kikuchi K, Nagatomo T, Abe H, Kawakami K, Duff HJ, Makielski JC, January CT, Nakashima Y	Blockade of HERG cardiac K ⁺ current by antifungal drug miconazole.	Br J Pharmacol	144	840-848	2005
67	Yasumasu T, Abe H, Oginosawa Y, Takahara K, Nakashima Y	Assessment of cardiac baroreflex function during fixed atrioventricular pacing using baroreceptor-stroke volume reflex sensitivity.	J Cardiovasc Electrophysiol,	16	727-731	2005
68	Oginosawa Y, Abe H, Nakashima Y	Prevalence of venous anatomical variants and occlusion among patients undergoing implantation of transvenous leads.	PACE	28	425-428	2005
69	Kohshi K, Abe H, Mizoguchi Y, Shimokobe M	Successful treatment of cervical spine epidural abscess by combined hyperbaric oxygenation.	Mt-Sinai J Med	72	381-384	2005
70	Oginosawa Y, Abe H, Takemasa H, Kohno R	Right ventricular outflow tract endocardial pacing complicated by intercostals muscle twitching.	PACE	28	476-477	2005

研究成果の刊行に関する一覧表 (雑誌)

No.	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
71	萩ノ沢啓司、竹政啓子、河野律子、安部治彦	右室流出路ペーシングの合併症ー右室流出路ペーシングにより muscletwitching をきたした一例ー。	Therapeutic Research	26	483-486	2005
72	安部治彦	わが国の ICD 患者の就労の実態	Medical Tribune		82-83	2005
73	熊谷浩一郎、安部治彦、中尾功二郎、高橋尚彦	心房細動の治療戦略ー Downstream アプローチから Upstream アプローチの現状ー。	Medical Tribune,		1-4	2005
74	安部治彦	ICD 植え込み患者を取り巻く心理的・社会的状況の分析。	Rhythmofthe Heart	3	2-3	2005
75	Nakazato Y, Yasuda M, Sasaki A, Iida Y, Kawano Y, Nakazato K, Tokano T, Mineda Y, Sumiyoshi M, Nakata Y, Daida H	Conversion and maintenance of sinus rhythm by bepridil in patients with persistent atrial fibrillation.	Circ J	69	44-48	2005
76	Masaki Y, Sumiyoshi M, Suwa S, Tamura H, Mineda Y, Ohta H, Kojima S, Nakata Y	Localized dissection of the sinus of Valsalva without coronary artery involvement during percutaneous coronary intervention.	Int Heart J	46	323-326	2005
77	Sumiyoshi M, Nakazato Y, Tokano T, Yasuda M, Mineda Y, Nakata Y, Daida H	Sinus node dysfunction concomitant with Brugada syndrome.	Circ J	69	946-950	2005
78	Kojima S, Sumiyoshi M, Watanabe Y, Suwa S, Matsumoto M, Nakata Y, Daida H	A Japanese case of familial cardiac myxoma associated with a mutation of the PRKAR1 α gene.	Internal Medicine	44	607-610	2005
79	林 英守、住吉正孝	薬物負荷試験の適応とその意義、	medicina	42	600-6002	2005
80	正木克由規、住吉正孝、峰田自章、田村浩、松永江律子、西野顯久、川村正樹、小島諭、諏訪哲、中田八洲郎	植え込み型除細動器 (ICD) 植え込み後に心室細動が確認された洞停止を伴う Brugada 症候群の 1 例	心臓	37(suppl3)	147-151	2005
81	中島博	医療現場におけるペースメーカー装着患者	かていてる	36	18-24	2005
82	中島博、和田修、内藤勝敏、長谷川利次	放射線が植え込み型ペースメーカーに与える影響ー新しい常識ー	TherapeuticResearch	26	1869-1872	2005
83	内藤勝敏、中島 博、房野隆文、和田 修、森田和子	先天性房室ブロックに心房頻拍を合併した 1 例	TherapeuticResearch	26	2231-2235	2005
84	Tarusawa, Y., Ohshita, K., Suzuki, Y., Nojima, T and Toyoshima, T.	Experimental Estimation of EMI from Cellular Base-Station Antennas on Implantable Cardiac Pacemakers.	IEEE	47(4)	938	2005

研究成果の刊行に関する一覧表 (雑誌)

No.	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
85	北村拓朗, 吉田雅文, 森本泰夫, 成井浩司 津田 徹, 菊地 央, 鈴木秀明	睡眠時無呼吸症候群に関する産業医の意識調査	日耳鼻	108	20-26	2005
86	中村 純・吉村玲児	うつ病の基礎知識	産業保健	2110(3)	4-8	2005
87	中村 純	事業場の産業保健スタッフによるケアをどのように実施する るか	産業医ジャーナル	28(2)	24-29	2005
88	中村 純	勤労者の自殺とうつ病の現状	臨精薬理	8(4)	583-584	2005
89	中野英樹・寺尾 岳・新開隆弘 岩田 昇・中村 純	福岡県の自殺者の危険因子について ～県内の精神科医からのアンケート調査による	九州精神医	51(1)	67	2005
90	中村 純・辻 尚志郎	気分障害の罹患と再発における性差	性差と医療	2(5)	37-39	2005
91	後藤牧子・上田展久・吉村玲児・ 柿原慎吾・加治恭子・山田恭久・ 新開浩二・中島満美・岩田昇・ 樋口輝彦・中村 純	SocialAdaptationSelf-evaluationScale(SASS)日本語版の 信頼性および妥当性	精神医	47(5)	483-489	2005
92	副田秀二・加来明希子	メンタルヘルス不全者への対応経験は管理監督者教育の 自覚的理解度に影響する	産業医ジャーナル	28(3)	59-62	2005
93	中村純	「うつ状態」と自殺	臨精医	34(5)	677-680	2005
94	吉村玲児・中村 純	うつ病と産業保健	精神	6(6)	573-577	2005
95	中村 純	産業医と精神科医との連携による職場のメンタルヘルスケ アー手法と実際	産業医学レビュー	18(3)	139-152	2005
96	Tokui N, Suzuki H, Udaka T, Hiraki N, Fujimura T, Fujimura K, Makishima K	Delayed-onset temporary auditory threshold shift following head blow in guinea pigs.	Hear Res	199	111-116	2005
97	Shiomori T, Udaka T, Tokui N, Morio T, Ohbuchi T, Suzuki H	Giant myoeptithelioma of the upper lip.	Acta Otolaryngol	125	894-898	2005
98	Fujimura T, Suzuki H, Shimizu T, Tokui N, Kitamura T, Udaka T, Doi Y	Pathological alterations of strial capillaries in dominant white spotting W/Wv mice.	Hear Res	209	53-59	2005

研究成果の刊行に関する一覧表 (雑誌)

No.	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
99	荻ノ沢泰司, 野上昭彦, 有馬秀紀, 小和瀬雪弥, 杉安愛子, 窪田彰一, 新井智恵子, 坂元 敦, 中嶋直久, 青木 元, 榎本和彦, 玉木利幸, 加藤健一	三尖弁輪 - 下大静脈間峡部に縦解離を有した心房粗動の2例	心臓	38	82-884	2006
100	野上昭彦	治療の必要な不整脈と放置できる不整脈	循環器科	59	386-397	2006
101	野上昭彦	心室細動に対するカテーテルアブレーション	医学のあゆみ	217	723-731	2006
102	野上昭彦	心室頻拍・心室細動に対するカテーテルアブレーション…最新の治療法を学ぶ	ICUとCCU	30	493-502	2006
103	野上昭彦	心室性不整脈, 特発性心室細動のカテーテルアブレーション	HeartView	10	1306-1315	2006
104	野上昭彦	治療抵抗性心房頻拍	モダンフイジシャン	26	1541-1546	2006
105	Sacher F, Probst V, Jesaka Y, Jacon P, Laborderie J, Mizon-Gerard F, Mabou P, Reuter S, Lamaison D, Takahashi Y, O' Neill MD, Garrigue S, Pierre B, Jais P, Pasquie J-L, Hocini M, Salvador-Mazenq M, Nogami A, Alain Amiel A, Defaye P, Bordachar P, Boveda S, Maury P, Klug D, Babuty D, Haissaguerre M, Mansourati J, Clementy J, Le Marec, H	Outcome following implantation of a cardioverter-defibrillator in patients with Brugada syndrome: a Multicenter study.	Circulation	114	2317-2324	2006
106	Tada H, Ito S, Shimbo G, Tadokoro K, Ito I, Hashimoto T, Miyaji K, Kaseno K, Naito S, Nogami A, Oshima S, Taniguchi K	Significance and utility of plasma brain natriuretic peptide concentrations in patients with idiopathic ventricular arrhythmias.	PACE	29	1395-1403	2006
107	Tada H, Toide H, Okaniwa H, Higuchi R, Nakajima T, Utsugi R, Hashimoto T, Miyaji K, Kaseno K, Tadokoro K, Naito S, Nogami A, Oshima S, Taniguchi K	Maximum ventricular dyssynchrony predicts clinical improvement and reverse remodeling during cardiac resynchronization therapy.	PACE	30	13-18	2007
108	Kaseno K, Tada H, Ito S, Tadokoro K, Hashimoto T, Miyaji K, Naito S, Oshima S, Nogami A, Taniguchi K	Idiopathic ventricular tachycardia requiring catheter ablation at two different portions in the outflow tract: Its prevalence and ECG characteristics.	PACE	30	88-93	2007
109	Kubota S, Nogami A, Sugiyasu A, Kasuya K	Cardiac resynchronization therapy in a patient with isolated noncompaction of the left ventricle and narrow QRS complexes.	Heart Rhythm	3	619-620	2006
110	Tada H, Yamada M, Naito S, Nogami A, Oshima S, Taniguchi K	Radiofrequency catheter ablation within the coronary sinus eliminates a macro-reentrant atrial tachycardia: Importance of mapping in the coronary sinus.	J Interv Electrophysiol	15	35-41	2006
111	Ito S, Tada H, Nogami A, Naito S, Oshima S, Taniguchi K	Atrial tachycardia arising from the right atrial inferoseptum masquerading as common atrial flutter.	Circ J	71	160-165	2007
112	Abe H, Kohno R, Sumiyoshi M, Oginosawa Y, Takemasa H, Tsurugi T, Nagatomo T, Otsuji Y	Non-pharmacological management of neurocardiogenic syncope.	J Arrhythmia(In press)			2007